

令和2年度第4回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和2年9月29日（火） 午前10時30分から12時00分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール2
- 出席者： 理事長 黒田 啓史
理 事 森 一樹，清水 恒広，半場 江利子，松本 重雄，位高 光司，
能見 伸八郎，山本 みどり，白須 正
監 事 長谷川 佐喜男，中島 俊則
事務局 折戸経営企画局次長，長谷川担当部長，大島京北病院統括事務長，
濱口経営企画課長，山本感染症科部長（資料6説明）

1 開会

2 議事・報告等

(1) 地方独立行政法人京都市立病院機構理事会規程の改正について

資料1に基づき，折戸経営企画局次長から説明
議案のとおり承認された。

(2) 院内照明器具のLED化について

資料2に基づき，長谷川担当部長から説明
議案のとおり承認された。

- 事業者の選定については，どのように周知を図るのか。
→ 機構のホームページにおいて公募する。
- 他にもコストダウンにつながる項目があると思う。検討を進めていって欲しい。

(3) 地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会結果報告について

資料3に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 病院としての本来の機能は果たされているが，財政的にどう取り組んでいくのか。
→ 医業収入は過去最高だが，支出がそれを上回っている。高額医薬品の使用により利益が少なくなる状況は今後も続く見込みであり，支出の抑制に努めていく。

(4) 月次収支報告（7月まで）

資料4に基づき，折戸経営企画局次長から説明

- 新型コロナウイルスに係る国の支援があると思うが，後追いで措置されるのか。
→ 国の支援策はあるが，現時点での入金はない。これから年度末にかけて補てんはあるものの，コロナ対策に係る実費補てんが中心である。
- 当院だけでなく，コロナの影響のために入院・外来患者が減少しても，直接関係しないものとして補てんされないため，どこも病院経営は厳しいと感じている。

（裏面あり）

(5) 収益状況月次報告（8月分）

資料5に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 市立病院よりも厳しい経営状況の病院もある中、頑張っていると思うが、今後、どう回復を図っていくかが大事である。
- 今回の事案を契機に、市立病院のあるべき姿を考えている。これまで地域の病院として当院をかかりつけ医として利用される方も多いが、引き続き、当院の本来の役割である高度医療を提供していくためには、2人主治医制を更に進め、外来の適正化を図っていく必要がある。
- コロナの影響で収入が大きく減っている状況は分かったが、直近の9月の状況はどうか。
- 7月を若干上回る程度に回復を予想しているが、入院患者数等の数字を見ても、完全には戻っていない。

(6) 新型コロナウイルス感染症への対応について

資料6に基づき、全体を折戸経営企画局次長から、院内感染部分を山本感染症科部長から説明

3 閉会